

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.9	
Q1 室内環境					0.40		-	2.9	
1 音環境				3.4	0.15	2.8	1.00	3.1	
1.1 室内騒音レベル		-		3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2 遮音				5.0	0.40	3.5	0.40		
1 開口部遮音性能		遮音性能等級T-2以上の建具を採用		5.0	1.00	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能		-		-	-	2.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		客室:Lr-45		-	-	4.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音		-		1.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境				2.3	0.35	2.2	1.00	2.2	
2.1 室温制御				2.5	0.50	3.4	0.50		
1 室温		-		3.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能		Low-E複層ガラス(SC=0.32、U=3.0)、外壁その他(U=0.86)		4.0	0.25	4.0	0.43		
3 ゾーン別制御性		-		1.0	0.37	-	-		
2.2 湿度制御		-		1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式		-		3.0	0.30	1.0	0.30		
3 光・視環境				3.0	0.25	3.6	1.00	3.3	
3.1 屋光利用				4.1	0.33	4.2	0.30		
1 屋光率		ラウンジ:2.5%≤屋光率、客室:1.25%≤屋光率		5.0	0.58	5.0	0.60		
2 方位別開口		-		-	-	-	-		
3 屋光利用設備		-		3.0	0.42	3.0	0.40		
3.2 グレア対策				2.0	0.29	4.0	0.30		
1 屋光制御		客室は、カーテン+庇(バルコニー)にて屋光制御		2.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度		-		3.0	0.14	3.0	0.15		
3.4 照明制御		-		3.0	0.24	3.0	0.25		
4 空気質環境				3.6	0.25	3.1	1.00	3.4	
4.1 発生源対策				4.0	0.50	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		建築材料は、JAS・JIS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気				2.0	0.30	1.6	0.38		
1 換気量		-		3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能		-		-	-	1.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		-		1.0	0.50	1.0	0.33		
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		-		-	-	-	-		
2 喫煙の制御		ビル全体を禁煙とする		5.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4	
1 機能性				3.7	0.40	4.4	1.00	3.9	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	4.0	0.60		
1 広さ・収納性		ツイン40㎡以上、全室ツイン		-	-	5.0	0.50		
2 高度情報通信設備対応		-		-	-	3.0	0.50		
3 バリアフリー計画		-		3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	5.0	0.40		
1 広さ感・景観		客室の平均天井高:2.74m		-	-	5.0	0.50		
2 リフレッシュスペース		-		-	-	-	-		
3 内装計画		自然との調和をテーマとし、生活空間としてのインテリアを意識した等		5.0	1.00	5.0	0.50		
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		維持管理に配慮した設計を行っている		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.2	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		-		3.0	0.20	-	-		
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA		4.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		-		3.0	0.20	-	-		

3	対応性・更新性		3.4	0.30	2.8	1.00	3.1
	3.1 空間のゆとり		-	-	2.6	0.50	
	1 階高のゆとり	-	-	-	3.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ	-	-	-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり	-	-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性		3.4	1.00	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	ケーブルラックを設置	5.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	ケーブルラック・PF管の採用	5.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.5
1	生物環境の保全と創出	-	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.0
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	2.9
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.89	4.1	0.20	-	-	4.1
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		2.6	0.50	-	-	2.6
	集合住宅以外の評価		2.6	1.00	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4	効率的運用		2.5	0.20	-	-	2.5
	集合住宅以外の評価		2.5	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	2.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	2.9
1	水資源保護		2.2	0.20	-	-	2.2
	1.1 節水	-	1.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.0	0.60	-	-	3.0
	2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。	4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.7	0.20	-	-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=1以下の発泡剤を用いた断熱材を使用している。	5.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.3
1	地球温暖化への配慮	LCCO ₂ 排出率=77%	3.9	0.33	-	-	3.9
2	地域環境への配慮		2.8	0.33	-	-	2.8
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.2	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインのチェックリストの項目の過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	4.0	○	○	○	○	○	○	○	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0		○	○	○	-	-	○	-	○	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		-	-	○	-	○	○	○	○	-	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		-	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0		-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	7.0		-	2.0	1.0	2.0	-	-	-	-	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0		1.0	1.0	2.0	3.0	1.0	-	-	-	1.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	-		-	-	-	-	-								
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	1.0	1.0	-	-	-							
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.3	窓の日射熱取得率(η)	0.3
U値(W/m2K)		窓システム	3.0
		屋根	0.6
		外壁	0.9
		床	2.7
住戸部分		窓システムU値	-
		外皮UA値	-
		ηAC	-
		ηAH	-

3.1.1 昼光率

昼光率 4.09%,1.56%

4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口面積率 0.0%

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース .0㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン 46.2㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 0.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観

天井高 2.74 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 25 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 0 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 0.0%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m2

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 41% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 79% 水平投影面積率 14% 地表面対策面積率 26% 舗装面積率 37%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m 0.89 断熱等性能等級 対象外 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

3 設備システムの高効率化

太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

非住宅部分

BEI/BEI_m 再エネ有 0.74 無 0.74 オフサイト再エネ有 - -

集合住宅の評価

一次エネ削減率 再エネ有 無 - -

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 58% 隣棟間隔指標Rw 0.98

地表面対策面積率 26.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%

見付面積Sb 528㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 66.96 m 基準高さHb 13.43 m

緑地 548㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡